

〔質疑〕 沖本

議長のご指名をいただきましたので、ざま大志会を代表して総括質疑を行います。

質疑は、今定例会に上程されている諸議案のうち、議案第3号、令和4年度座間市一般会計補正予算（第15号）及び議案第8号、令和5年度座間市一般会計予算、特に当初予算編成に関することに絞って伺ってまいりたいと思います。総括質疑ですので、ざま大志会としては、個々の事業の細かい内容については分科会並びに委員会において審査を行うこととし、大綱的な質疑を行ってまいります。

まず、議案第3号、令和4年度座間市一般会計補正予算（第15号）について簡潔に伺います。

本補正予算における歳入の確保、歳出における工夫など、積極的に前倒しされた事業等を含め、当局として政策的、戦略的な取組、あるいは努力、研究された事業について、その目的、経緯について当局に伺います。

次に、議案第8号、令和5年度座間市一般会計予算について伺います。

先ほどの吉田議員の質疑に対する答弁にもありましたが、事前に頂いております令和5年度当初予算参考資料によれば、「本市の令和5年度当初予算は、新たに開始する第五次座間市総合計画の実現に向けた取組を進めるとともに、引き続きwithコロナ、さらにはアフターコロナを意識して、市民生活や経済の回復に向けた対策や物価高騰対策などを進めていくほか、人口減少の抑制や脱炭素社会の推進といった喫緊の課題に的確に対応していくこととしております。これらのことを踏まえた上で、以下のとおり、予算編成を定めました。（1）第五次座間市総合計画が目指すまちの姿、「ひと・まちが輝き未来へつなぐ」の実現に向けて、施策を具現化した実施計画に掲げる重点事業は、着実に推進できる予算を計上すること。（2）新型コロナウイルス感染症への対応策については、withコロナ、アフターコロナを意識して各事業の予算を計上すること。（3）選択と集中により、必要性や緊急性、費用対効果が高い事業を優先的に実施できる予算を計上すること。ただし、事業の見直しに当たっては、市民生活への影響にできるだけ配慮するとともに、必要に応じて代替措置等を講じること。（4）激しく変化する社会情勢の中、多様化、複雑化する市民ニーズを的確に捉え、庁内横断的な取組に加えて、市民、団体、企業などと協力しながら対応できる予算を計上すること。

（5）公共施設の老朽化等への対応は、座間市公共施設再整備計画に基づき着実に推進できる予算を計上すること。（6）市税等の自主財源については、引き続き収納率向上に努めて歳入見込額を精査するとともに、国、県の動向を把握し、事業実施に当たって補助金交付対象となる場合は必ず歳入予算として補助金を計上するなど、最大限特定財源を計上すること」とあり、続けて、「以上の方針に基づいて編成された令和5年度当初予算は、一般会計が440億円余、本市全体の予算総額も778億円余となり、それぞれ過去最大の予算規模になりました」と記されております。

質疑でありますので、自分の意見、考えは控えるべきですが、一言だけ申し添えさせていただきます。昨日の提案説明では、市長からは、さきに述べた六つの予算編成方針の内容については触れられず、前段を示された後、「これらを踏まえて定めた予算編成方針に基づいて編成された」とおっしゃっていました。昨日の時点で、この重要な六つの予算編成方針が傍聴者あるいはネット中継をご覧の皆さんに伝わらなかったのではないかと懸念され、大変もったいないなと感じるものでありました。

さて、第五次座間市総合計画に掲げる目指すまちの姿、「ひと・まちが輝き未来へつなぐ」の実現に向けて、第五次座間市総合計画に掲げる七つの政策と32の施策に沿った令和5年度の主な事業のうち、新規事業としては、地球温暖化対策の推進に向けてゼロカーボンシティを実現するために、1件

15万円までの電気自動車購入の補助をはじめ、その充電設備やスマートハウス関連設備の設置に対する補助を行うゼロカーボン推進補助事業などの4事業、次に、拡充事業としては、がん検診に係る事業を整理、統合するとともに、従来の事業に加え、胃がん検診において新たに内視鏡検査も実施することにしたがん検診事業や、水道水を安定的に供給するため、老朽化した管路の漏水等を未然に防止し、災害に備え耐水性の向上を図るなど、計画的な布設替え工事を行う管路更新工事（水道）事業など39事業、また、継続事業としては、リユースを優先し、その先にリサイクルがある関係性から、粗大ごみ収集運搬事業費と資源物分別収集実施事業費を統合し、一連の事業として推進するリユース・リサイクル推進事業や、生活に困っている市民に対し、健康で文化的な最低限度の生活を保障するために、必要に応じ各種の扶助をもって援助する生活保護法定扶助事業など10事業が示されております。

それでは、令和5年度予算編成における総括的な見解について市長に伺ってまいります。先ほど申し上げた、令和5年度当初予算参考資料の冒頭にある令和5年度当初予算編成についてに定められている予算編成方針は、昨年10月3日に佐藤市長から各部局室次・課長へ発出された令和5年度予算編成について（通達）にある、3、予算編成方針の基本とされた六つの項目そのものであります。

では、この予算編成の基本方針が、同じく先ほど申し上げた新規事業や拡充事業、継続事業において、どのような考えの下、どのように反映され予算計上されたのか、お示しいただければと思います。

例えば、繰り返しとなりますが、六つの項目の（1）では「第五次座間市総合計画が目指すまちの姿、「ひと・まちが輝き未来につなぐ」の実現に向けて、施策を具現化した実施計画に掲げる重点事業は、着実に推進できる予算を計上すること」、また、（2）では「新型コロナウイルス感染症への対応策については、withコロナ、アフターコロナを意識して各事業の予算を計上すること」とありますが、どういった事業にその考えが反映されているのでしょうか、伺います。

次に、（3）では「選択と集中により、必要性や緊急性、費用対効果が高い事業を優先的に実施できる予算を計上すること」とありますが、必要性や緊急性、費用対効果が高い事業として、当該年度どういった事業が定められたのか伺います。

さらに、（4）では「激しく変化する社会情勢の中、多様化、複雑化する市民ニーズを的確に捉え、庁内横断的な取組に加えて、市民、団体、企業などと協力しながら対応できる予算を計上すること」、また、（6）では「市税等の自主財源については、引き続き収納率向上に努めて歳入見込額を精査するとともに、国、県の動向を把握し、事業実施に当たって補助金交付対象となる場合は必ず歳入予算として補助金を計上するなど、最大限特定財源を計上すること」とありますが、どういった事業にその考えが反映されているのでしょうか、伺います。

また、令和5年度予算編成について（通達）には、（1）から（6）の項目の後に、「事業の実施手法の改善等により効率化を図るとともに、令和3年度決算審議における指摘事項なども考慮し、徹底した積算根拠の精査を行い、歳出全般の抑制に努めること」とありますが、令和3年度決算審議における指摘事項などとはどのようなもので、その指摘事項に対してどのように徹底した積算根拠の精査を行い、今年度の歳出全般の抑制につながられたのかを伺います。

次に、ざま大志会として例年、予算編成の質疑で伺っていることとして、令和3年度事業や令和4年度事業を振り返り、どのような事業をどのように点検、精査、分析され、令和5年度の拡充事業、継続事業の経費を抑制したり、特定財源の着実な確保に注力されたりしているのでしょうか。また、新規事業はどのような背景、経緯の下で実施を決定されたのでしょうか。それぞれ代表的な事業について市長の考えをお示しいただくとともに、令和5年度予算編成における政策的、戦略的特徴を明らかにしていただくよう求め、1回目の質疑とします。（拍手）

〔答弁〕市長

沖本議員からの総括質疑にご答弁をさせていただきたいと存じます。

議案第8号についてご答弁をさせていただきます。

初めに、予算編成方針についてでございますが、令和5年度からスタートする第五次座間市総合計画を見据えた予算とすべく、私の考えていることと職員が考えている方向を同じ向きにしたいという思いで発出をさせていただいたものでございます。職員が私の考えているビジョンを予算編成方針として共有した上で事業を精査し予算要求したものを、財政部局を中心とした予算査定、その後の市長ヒアリングなどを経て、最終的にこの令和5年度当初予算として提案をさせていただいたものです。ですので、予算編成方針は、全ての事業においてこの予算編成方針を念頭に置きながら事業を組み立てたものと捉えております。

予算編成方針1の「実施計画に掲げる重点事業は、着実に推進できる予算を計上すること」についてでございますが、これは、とにかくこの予算編成方針というのは全ての事業において念頭に置きながらということは前提条件といたしまして、あえて上げるとするならば、シティプロモーション推進事業費やゼロカーボン推進補助事業費、小児医療費助成事業費、地域少子化対策推進事業費などに必要十分な予算措置ができましたので、着実に推進をしております。

2の「新型コロナウイルス感染症への対応策については、withコロナ、アフターコロナを意識して各事業の予算を計上すること」については、新しい生活様式に対応するためのデジタルトランスフォーメーション推進事業費や、経済回復支援策として中小企業資金繰り支援事業費などが代表的なものでございますが、原則として、全ての事業においてwithコロナ、アフターコロナが意識されているものと考えております。

3の「選択と集中により、必要性や緊急性、費用対効果が高い事業を優先的に実施できる予算を計上すること」につきましては、子育て支援や教育関係事業を必要性、緊急性が高いものと捉え、予算にも反映をさせていただいております。

4の「激しく変化する社会情勢の中、多様化、複雑化する市民ニーズを的確に捉え、庁内横断的な取組に加えて、市民、団体、企業などと協力しながら対応できる予算を計上すること」につきましては、コミュニティ推進事業費をはじめ、シティプロモーション推進事業費やゼロカーボン推進補助事業費、デジタルトランスフォーメーション推進事業費、さらにはふるさと納税返礼品事業費などが該当すると思いますが、全ての事業において、庁内横断的な取組に加えて、市民、企業、団体などと協力しながら対応することを念頭に置いて事業を組み立てることを指示をさせていただきました。

6の「市税等の自主財源については、引き続き収納率向上に努めて歳入見込額を精査するとともに、国、県の動向を把握し、事業実施に当たって補助金交付対象となる場合は必ず歳入予算として補助金を計上するなど、最大限特定財源を計上すること」につきましては、道路や公園の整備、社会教育施設やコミュニティセンター等の大規模改修の各事業が代表的なものとして上げられますが、国庫支出金の歳入が前年度比3億6,000万円余の伸びを示していることから、様々な事業において最大限の特定財源が計上されているものと捉えております。

令和3年度の決算審議において、議員の皆様方から様々な視点でご意見等をいただきましたが、新型コロナウイルス感染症の影響が本格化し、社会情勢が激変する中、限られた財源で迅速な対応と着実な行政運営が行えたことをご評価いただけたものと捉えております。そういった内容もしっかりと各所属で精査した上で、改めて事業を見直し、抑えるところは抑えるという意識の下での予算要求が

なされたものと捉えております。

最後に、事業の点検や精査、代表的な事業については、令和5年度からスタートする第五次座間市総合計画では7の政策、32の施策を掲げ、その体系に合わせて全ての事業を見直し、結果として統廃合している事業もかなりございます。また、新規事業や拡充事業では、本市として子育てを応援していくという姿勢を明確にするためにも、地域少子化対策推進事業費を大幅に拡充したほか、議員にも言及をしていただいておりますが、ゼロカーボン推進補助事業費も新規補助を加えて大幅拡充し、計上しております。

私からは以上でございます。

〔答弁〕 企画財政部長

議案第3号についてご質問いただきました。

本補正におきましては、執行管理を徹底した上で発生した不用額を他の事業執行財源に活用しているところです。また、新型コロナウイルス感染症対策のために備品を整備する小学校整備事業費（国追加措置分）や、同感染症対策の消耗品を購入する小学校総務一般管理経費（国追加措置分）に国の補正予算を財源として活用し、事業を前倒しして実施します。これらは、日頃から職員が国や県などの動向を注視し、絶えず情報収集を行ってきた成果であると捉えています。さらに、本年度から財政調整基金残高を有効活用するためにその一部を債券で運用し、その運用益となる399万3,000円を歳入予算補正として計上しました。

〔質疑〕 沖本

それでは、いただいた答弁について、予算編成方針に絞って再質疑を行ってまいりたいと思います。

1回目の質疑の中で申し上げたように、予算編成方針には、昨年10月3日に市長から各部局室次・課長へ発出された令和5年度予算編成について（通達）にある予算編成方針の基本とされた六つの項目があります。1回目の質疑では、そうした六つの項目、方針がどういった事業に今年度反映されているのか、あるいはどういった事業に当てはめられているのかということ、そうした観点から、方針の（5）の公共施設の老朽化等への対応を除く、（1）から（4）及び（6）の事業について伺いました。それらの事業について、それぞれ丁寧な答弁をいただきました。前任者の質疑に対する各部局室の答弁でも伺いましたし、また、今の市長答弁からも、様々工夫あるいは努力されて今回の予算編成されているということがよく分かります。

では、そもそも論というところで再度ちょっとお伺いしたいのですけれども、予算編成のこの六つの項目、当然ながら市長ご自身が考えられ、市長が考えたこの方針に基づいて予算編成を行いなさいと各部局室次・課長へ指示をされたという認識でよろしいか、先ほど答弁にもありましたけれども、基本的なところについて再度お伺いしたいと思います。

その上で、先ほどの答弁で述べられたような事業が、各部局室からこういった事業が市長のおっしゃる方針に基づいて予算編成した事業なのですよということで上げられた事業だという理解でよろしいのか、基本的なところについて伺い、再質疑とします。

〔答弁〕 市長

沖本議員より再質疑をいただきました。

予算編成方針は令和4年10月に発出をさせていただいておりますので、私の考えているビジョンを

予算編成方針として発出をさせていただきました。当然、私がこの内容については考えておりますので、そのビジョンを職員は共有をし、そして、全ての事業がこの予算編成方針で上げられたものに合致するとは限らないので、例えば、市民、団体、企業などと協力しながら対応できる予算ということを上げていますが、行政が単独でやるべき事業などもありますので、全ての事業がこれにかなっているということではございませんが、こういったことを念頭に置きながら職員はこの予算編成に当たったと理解をしておりますし、また、そこから上がってきた事業を、こちらとしても市長ヒアリングなどを通して精査をさせていただき、そして予算編成をしたものでございます。

以上でございます。

〔質疑〕 沖本

それでは、再々質疑を行ってまいりたいと思います。

そもそも論の観点で再質疑を行い、答弁をいただきました。もちろん市長のビジョン、これを職員が共有し、その中で全ての事業が合致するとは限らないけれども、協議しながらうまく進めていったという話、大変な苦勞があったと思うわけですね。

ちょっと横道にそれる話になってしまっていて恐縮なのですが、今週13日の月曜日に本市の定例記者会見が行われ、その一部になるかもしれませんけれども、市のホームページのトップページ、市政情報、記者会見プレスリリース、令和4年度記者会見、令和5年2月13日からというところで、その様子がユーチューブで視聴できるようになっています。私も拝聴させていただきました。その中で、そういった予算編成の中でのことということで市長がおっしゃっていることなのなのですが、「市長就任から3度目となる当初予算を編成させていただきました。一昨年、昨年は就任から間もなく、またコロナ禍ということもあり、私にとりまして職員にとりまして大変特殊な予算編成だったと思っておりますが、令和5年度は第五次座間市総合計画の開始年度でありまして、予算における枠組みも大きく変わることから、本年度も特別な予算編成作業であり、大変な作業を重ねてまいりました」、こういったことをおっしゃっている。もし私の聞き取りに間違いがあればおわび申し上げますけれども。繰り返しになりますが、市長は、「令和5年度は第五次座間市総合計画の開始年度でありまして、予算における枠組みも大きく変わることから、大変な作業を重ねてまいりました」とおっしゃっています。本当に大変な作業だったと思うのですが、では、先ほどの再質疑の答弁を踏まえ、市長方針に基づいて掲げられたこの事業の中で、こういった事業が大変な作業を重ねたという事業だったのか、明らかにしていただければと思います。

また、そもそも、「この令和5年度は第五次座間市総合計画の開始年度でありまして、予算における枠組みも大きく変わる」とおっしゃっている、この意味を少し理解できないので、よろしければご教示いただければと思いますし、大変な作業を重ねられたということは各部局室の職員だったのでしょうか、あるいは市長ご自身だったのでしょうか、よろしければ明らかにしていただければと思います。

そして最後に、市長方針に基づいて各部局室から提示された予算編成事業に対する市長の評価、自らに対する評価、そして各部局室における評価についてお伺いし、ざま大志会を代表しての総括質疑を終わります。

〔答弁〕 市長

沖本議員より再々質疑を頂戴いたしましたので、答弁をさせていただきます。

予算編成における苦勞というところだと思います。まず、枠組みが変わったということでございますが、これは第五次座間市総合計画を推進する上で組織改編を行いましたので、当然その組織に合った事業の組立てをしましたので、その枠組みが大きく変わったという意味合いでございます。ですので、重なる事業を精査したり、先ほど吉田議員の各部長の答弁の中でもございましたが、様々な事業の精査をしております、見直しをしております。統合をしたりというものも結構ございまして、その統合する際に、予算編成方針の中でお示しをさせていただきましたが、この統合などをする中で、事業の見直しに当たっては市民生活への影響にできるだけ配慮するとともに、必要に応じて代替措置等を講ずることということで指示をしておりますので、例えば統合等をする際に、しっかりと前向きに進めているといった姿勢を示していただきたいといったことをその都度指示をさせていただいたりもしております。そういった中で、どちらが苦勞したのかというご質問もございました。それは当然、まずはそれぞれの事業を担っている職員が、大変その見直しをしたり新たな事業を考えたりといった苦勞をしております。そして、その積み上がってきたものを予算査定をしていくという、財政部局を中心とした予算査定というのも大変な苦勞を重ねております。そしてさらに、その上がってきたものの中からまたさらにヒアリングなどを通してどういった事業を推進していくかなど、そういったことを私も含めて精査をしておりますので、そういったところで私も苦勞をしておりますので、これは、私、そして市の職員全て一体となって、この予算編成に向けて前向きに努力をさせていただいた結果が今回の予算編成になると考えております。

以上でございます。